



発行日：平成 28年 8月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 33 回川部会WGを開催しました！

8月5日（金曜日）に第33回川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、豊田市矢作川河川環境活性化プランについての意見交換、および9月以降の活動予定についての協議を行いました。

日 時：平成 28年 8月 5日（金） 14:30～17:00
会議場所：豊田市職員会館 2F 第一会議室
参加者：21名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1. 豊田市矢作川河川環境活性化プランについて意見交換をおこないました



豊田市が矢作川の安全・環境・景観を一体的にとらえる川づくりを目指した「豊田市矢作川河川環境活性化プラン」について、概要版の内容をもとに矢作川研究所の早川所長よりご説明いただきました。

豊田市矢作川河川環境活性化プランでは、矢作川を取り巻く自然環境や社会の変化に対応し、次世代を担う子どもたちに自然豊かな矢作川を引き継ぐため、市民が描く矢作川の将来像を検討しています。

■目指す矢作川の姿

- ・魚や昆虫にとって棲みよい川づくりとはどのようなものか
- ・私たちにとって喜びや安らぎを感じる川づくりとはどのようなものか
- ・その具現化のために私たちは何をしていくべきか

■豊田市矢作川河川環境活性化プランの目標

- ・市民にとって、より美しくより自然豊かな矢作川
- ・市民が豊かな自然の恵みをより享受できる矢作川
- ・より多くの市民により、豊かな自然が守られ活用される矢作川

これらの目標を達成するために、検討委員会では矢作川を5つの区間に分け課題や対策を検討しています。

なお、期待される新たな展開として、矢作川水辺プロジェクト、広域サイクリングロード構想、および河川愛護活動の流域圏への展開が挙げられています。

早川所長からは、本懇談会での議題としては、広域サイクリングロード構想に関する検討や、河川愛護活動の流域圏全体への展開に向けた情報共有・情報提供の提案がありました。



2. 今後のスケジュールについて

- 9月：加茂川水門の魚道設置について・白浜工区および加茂川水門の現地調査
- 10月：家下川湛水防除事業関連について（設計状況の説明、意見交換）・山川海流域連携について
- 11月：広域サイクリングロード構想・河川愛護活動の矢作川流域圏への展開

3. 話題提供



愛知工業大学の内田先生から、トビゲラ類と河床攪乱との関係についてとりまとめた論文について紹介がありました。本研究は矢作川本流の瀬における、水生昆虫の指標から河床の状態をどのように評価できるかを調べた内容です。攪乱からの経過時間と位置関係を示した図からは、本プランでも、河床が安定していて問題があるとされている地点と一致していることが示された興味深い結果でした。また懇談会メンバーより水中の現状を確認するための現地見学に関する提案がありました。



岡田ら（2016）：矢作川における造網性トビゲラ類を用いた河床攪乱の評価

岡田ら（2016）：矢作川中流の瀬の底生動物群集の遷移におけるヒゲナガカワトビゲラの位置付け

4.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶回答)

(1) 豊田市矢作川河川環境活性化プランについて

■豊田市矢作川河川環境活性化プランの概要について

- ・このプランは人が川に親しむ環境づくりという印象がある。親しむということにウェイトが置かれている。(光岡)
- ・人が使う部分と自然環境の機能のために残す部分は、メリハリをつけることが大事だと思う。(高橋)
- ・学びという話をキーワードに入れて欲しかった。川や川の中の生き物そのものが学びの対象であるから、今後の低水路の検討においては学び視点からも議論を展開していきたい。(鷺見)
- ・新しい施設や護岸をすることを極力少なくして、維持管理に力を入れてほしい。我々がこの河川環境を利用すること自体が本当の共生だと思う。(本守)

■川の水質問題について

- ・海の生物にとって川から供給される栄養分が重要であるが、これまでの話し合いでは生き物にとっての食料の議論がなかなか出てきていない。そういった切り口もぜひ持っていただくと海部会としてはありがたい。(井上)
- ▶ 川の生物にとっては川の出水が与える物理的影響が強い。一方で海の生物は、いろいろな生物が必要な元素を取り合って生活しているので、川の中の元素の微妙な多寡が非常に重大な問題となる。活性化プランの中でこういうところを変えると水質が変わるなど、何か案はないか。(内田)
- ▶ 市街地内に土壌トレンチを作り、一度地下浸透させることで、水質を変えることが可能であると思う。洪水対策としても有益な方法であると思う。(井上)
- ▶ 東京の構成層は関東ロームがであるから有利だが、矢作川流域では物理的・地層の問題から地下浸透は難しいのではないか。(鷺見)
- ・矢作川流域では個々の町で下水処理せずバイパスを使って一括処理されている。これもふまえて量と物質の分配を考えていかなくてはならない。(鷺見)
- ・概要版についてもう少し具体的に示したらどうか。例えば利水についても、利水の結果排水があるというサイクルを付け足してほしい。また現在の矢作川の水質に関して、良好な水質を保っているというのはBOD(生物化学的酸素要求量)やSS(懸濁物質または浮遊物質)に限ったことではないのか。(野田)

■整備イメージについて

- ・利用価値の多い瀬が目がいってしまいがちだが、淵こそ表現するべきではないか。(本守)
- ▶ 概要版に表現してあるのは産卵場の位置であるため、瀬の部分がどこだということに記載している。(早川)
- ・矢作川全体の樹林化は非常に重要な問題だと思う。区間①にあるような対策はいろいろやってみるべきだ(高橋)
- ▶ 砂州の発達を期待して、低水路幅を広げすぎても動かない砂州となり結局樹林化してしまう可能性がある。大きい洪水が来ないという前提で上流から供給される土砂が増えたら、河川ではどうなるのか見てみたい。(鷺見)
- ・ミスベリングのカフェの案に関して、カフェを展開する場合エコカフェであってほしい。ごみを捨てない、自然を大事にするというように啓発の場であってほしい。(野田)

(2) 振り返り

よかったと思うこと：話の内容が具体的で絞られていたので議論しやすかった。/豊田市矢作川河川環境活性化プランで、矢作川のこれからの姿に対するイメージが膨らんだ。/概要版がA3版のカラー印刷で見やすかった。/豊田市矢作川河川環境活性化プランの概要が分かってよかった。/議事進行がスムーズだった。/河川について議論ができてよかった。/豊田市矢作川河川環境活性化プランについて活発な話し合いができた。/各出席者から多角度から意見が交換された。/内田先生から河川環境に関する研究論文が配布され、矢作川の課題に対する現況の参考とともに、今後の生物指標の検討にも参考になった。

来年度、取り組んでいきたい活動など：川部会としても、議論を結果として「絵」にする必要を感じる。/矢作川の現状に関して、説明を増やしてもいいのではないか。たとえば、上流の森林の管理不足や周辺の構造物・土地利用変化による内水も絡め、出水ピークの制御や土砂・流木問題があることを念頭に整備が進められることが望まれる。/生き物の項目のなかでは、希少性や河川生態系・地域性の観点分類した説明や種の減少傾向がある旨の記載が望まれる。/水質の項目では矢作川の課題については個性と機能を低下させている要因が課題として説明を加えることが望まれる。/市民が目指す矢作川の将来像について今後どのような展開になるのか、確認したりフィードバックできる体制や指標などを示した、運用面のページが望まれる。/ミスベリングやカフェや築場をつくる取り組みについては環境保全等を啓発する内容をその場にプラスすることが望まれる。

今後の流域圏懇談会の予定



- 第34回川部会 WG 日時：平成28年9月23日 13:00～ ※詳細日時はMLにて決定します。
内容：・新設排水機場(上郷排水機場)の設計内容について
・排水機場、承水溝、長池、矢作川・家下川合流点段差改善箇所現地調査



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iinet.or.jp)までお送りください。

